

「日本祭り」によって明らかになった日墨協会の役割

三井 広一

日本祭りをもって貢献する日墨協会

メキシコの日系人の全国組織である日墨協会では、春と秋のお祭りをはじめ、様々なイベントを開催している。移民120周年の2017年は、恒例の春・夏・秋以外に、榎本移民120周年記念行事や、日本美術・文化を紹介した「いろは」展開催に合わせての日本祭り、また、ラーメン祭りなど、合計8回の日本祭りを行った。和食や酒の販売、踊り、音楽や琉球太鼓、いけばな、茶の湯、アイドル、コスプレ、アニメなど、日本の文化を様々な形で紹介している。

理由はその時々で違うが、大好評の時もあれば、思ったよりも人が入らない時もある。訪れるのは若い層が多く、やはりアイドルやアニメ、歌や音楽などに人気が高い。2017年の秋祭りにはコスプレコンクールが開かれ、25人の参加があり、かなり凝った衣装に身を包み、高いレベルのコンクールになった。2015年、日本で行われた世界コスプレサミットでは、メキシコが優勝している。コスプレ大会も地元で開催され、非常に高いレベルのコスプレ文化が育っている。



会場を練り歩く武将隊（写真はすべて日墨協会提供）

また、昨年の秋祭りは、メキシコシティと名古屋市の姉妹都市締結40周年を記念して名古屋から、ご当地アイドルのdela¹と「名古屋おもてなし武将隊」²、それぞれ4人のメンバーが日本から参加し、歌や踊り、コスプレコンクールの審査員、握手会、戦国武

将姿に扮したパフォーマンスも大変な人気を呼び、かなり盛り上がった。日墨協会のフェイスブック（FB-<https://www.facebook.com/amjapon/>）にも、これらのメンバーのパフォーマンスを喜ぶ声が多く寄せられた。



コスプレ優勝者とdela、審査員のメンバー。全日空より航空券贈呈

祭りでは日本食や和風のグッズなどを売るスタンドも人気が高く、毎回期待して来てくださる人も多い。常連の人たちからは、もっとスタンドを増やして欲しいという要望もある。当然、日本の技術や企業に対する興味も高く、秋祭りの日本企業紹介ブースは大好評であった。

一方、毎年秋祭りに合わせて開かれる「草月」の花展も人気が高い。また、協会の茶室で行われる茶のお点前のために訪れる人も多い。祭りには来場者の推移があり、昨年の春祭りには12,000人の来場者があったが、秋祭りは4日間で5,000人であった。それでも、アニメやアイドルショー、また、いけばな



いけばな草月展覧会

展や茶室、墨絵や書道など、来場者数に大きな影響を受けることはない。一方、日本の物品や食べ物を売る県人会や協会、企業のブースでは、来場者の数がもろに影響を及ぼしていることが心苦しい。

しかし、人気が高いオタクやアニメ、またアイドル、コスプレといった現代のサブカルチャーと、伝統文化の間に、どういう共通点があって、人気を維持できるのだろうか？

協会のFBに寄せられる評価は、今年の3月初旬の時点で、総合評価4.1の点数を受けている。人によって、また協会に訪れる時期によっても評価は違う。この数字は悪くはないが、昨年春祭りの前までは、4.6の評価を受けていた。桜が満開であるとか、芸者が見られるなどの誤報が拡散し、初めて12,000人以上の人が訪れ、入り口に長蛇の列ができ会場に入れない人も出て、かなりの苦情を受けたこともあり、評価は急降下した。

日本文化の魅力の発見

日本祭りをはじめとした行事は、一過性の打ち上げ花火ではない。そこから明確になったことを基に、日墨協会は、これから日系社会、メキシコ社会に何を提供していけばいいのかということを検証している。

昨年来、FBでいただいた679のレビューの中には、日本庭園が素晴らしく気持ちがいいとか、祭りのお店がいい、アトラクションがいい、日本を感じることができた、対応してくれた人がいい、といったコメントがみられた。もっと日本の伝統的な文化、音楽や芸術に触れたい、自然に対する姿勢を学びたい、というコメントもある。こういうコメントから、何を見出せばいいのでしょうか？

昨年の秋祭りには、delaや武将隊のパフォーマンスが大変好評であったことは先に述べた。特に、女



高瀬駐メキシコ大使、dela、武将隊

性のグループだったこともあり、delaの人気は高かった。彼女らの魅力は、可愛らしさ、踊りや歌、衣装などが惹きつけたのであろうが、それ以上に大事なことがあることに気付かされた。メインのコンサートを行なった日の前日、協会の理事会メンバーが歓迎の食事会を開いた時、私は遅れて参加したので、彼女らへの印象は薄いと思っていた。しかし、コンサートの直前、ステージの近くに立っていた私の前をdelaが通った時、キャプテンの沢井里奈さんが私に気づき、「昨日はありがとうございました」と言って軽く会釈をしてくれた。さらに、里奈さんのブログには、メキシコに出発する前日から5日間の滞在中、毎日欠かさずブログにコメントをアップしていた。かなりの過密スケジュールで大変な中、毎日メキシコで公演できた喜びやファンへの感謝の気持ちを伝えていた。こういう姿勢が人の心をつかむのではないかと感じる。



dela ステージ

昨年10月には、メキシコシティから車で約1時間のクエルナバカ市で開催されたお祭りに招待されて、日墨協会は日本食や文化のワークショップをもって参加した。そこで茶のお点前も行い、多くの方に参加いただいたが、午前の人が少ない時間に若い女性を訪れた。他には客がいなかったので、彼女一人にお点前をすることになった。いよいよ、お点前を始めようとした時、彼女が突然泣き始めたので非常に驚いた。泣くのが収まるまで待ってお点前をはじめ、お茶を飲んで落ち着いた頃に、泣いた理由を尋ねると、「自分一人のためだけにお茶を点ててくれるなんて、こんな経験をしたことはなかった。大変感激した」という返事だった。一人の人のことを思っておもてなしをする、これこそおもてなしの原点である。その後も、参加される一人一人に気配りしつつお点前をしたところ、大変喜んでいただくことができた。

どの祭りでも、アイドルばかりではなく、珍しいもの、美しいものに興味を寄せるのは勿論だが、日本文化に触れて心を動かされるということがわかったことは大きな収穫である。

メキシコ人の心に響く日本文化

本年2月、日系企業が多く進出するバヒオ地域の州立美術館で行われた日本美術文化の展覧会「イロハ展」の閉会セレモニーが行われた。州の文化関係者や展示会場となった美術館の館長、伯耆田在レオン総領事、和久井日墨協会会長などの挨拶が終わった後、琴の西村佳子先生が率いる^{かそうかい}蘇箏会の演奏と日本舞踊の川辺民子先生、木原直子先生の踊りが披露された。その後、館長に感想を伺う機会があったが、「本当に魂に響く美しい演奏、踊りだった」と喜んでおられた。さらに、館長の友人は、「鈴木大拙の本で禅のことを学んでいるが、今日の演奏は、大自然の中に包まれたような感覚を味わうことができ、心を洗われたようだ。鈴木大拙が説いたことを実感できた」と貴重なお話をいただいた。



バヒオ地区における琴の演奏と日本舞踊

メキシコはかつて高度な古代文明が栄えた国であり、豊かな文化が積み重なって今日の文化を形成している。そのような背景もあって、深いところで日本文化と通じることができるのではないかと感じる。

祭りで、茶のお点前を受ける人も、協会の日本庭園に身を置いて楽しむ人も、琴の音色も、おもてな

しの心が溢れるアイドルたちの歌を聞く人も、楽しく、心地よい気持ち、平和な気持ちになり、心が洗われたような境地になって戻って行くのではないだろうか？



茶室でお茶を楽しむ人たち

日本祭りで明らかになった日墨協会の役割

元ヤンキース選手の松井秀喜氏が座右の名としてある言葉がある。アメリカの哲学者ウィリアム・ジェームスの言葉である。³

心が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる。

習慣が変われば人格が変わる。

人格が変われば運命が変わる。

日本は、自然との関わりを大切にして生きて来た文化を有する。自然の恵みを受け、自然の秩序になり、自然と対立することなく生きて来た。そして、文化的には外から様々な文化を受け入れ、独自の文化を作る力を持っている。

また、日本人の生活の仕組みの本筋を組織したのが茶の湯と言われている。⁴こうした自然との交流を、さらに洗練させたのが茶室であると言える。茶室には、露地と呼ばれている庭が付属し、俗塵を払って清らかな山間の自然の中で幽居するような感覚である。茶室は、草葺きの屋根、細い木の柱、竹の支えなど、自然の素材を用いることによって、日本人は自然を身近に感じてきた。

茶室の床間に飾られる花は、「花は野にあるように」といって、野に咲く花を自然のまま活ける。千変万化する自然の諸相を一花一草のうちに象徴し、花の生命を瓶の中に生かし、そこから感じる命を受け止めてきた。茶のお点前は、総合的に見れば、自然が凝縮された美術品が、一時的に作られるということである。一服のお茶を飲むことで、その時間を楽しむことができ、自然に包まれ、心が洗われ、姿勢が

(みつい こういち 社団法人 日墨協会広報出版担当理事)

正される。

また、日本人の芸術家は、花鳥風月をはじめとする自然の動植物、男女の恋愛感情や悲劇に対しても、これを芸術的に表現し、詩や歌、舞踊や音曲を通して人々に訴え、人々の生活に潤いと希望を与えてきた。美術工芸についても、自然の美しさを独自の審美眼で捉え、作者の魂を通して創り上げて作品によって、観る人の心に大きな感動を与えて来たのである。日本の芸術や芸能の中心となる心情は、自然への畏敬と深い共感であり、人間は自然の中に抱かれ、生かされる生命として自覚されてきた。⁵

日本の四季折々の自然の美しさ、春の花、秋の夜空に輝く月、冬の雪の美しさが、日本の絵画や焼物、漆器、染織や日本の住宅などのモチーフやデザインとなって、日本人の衣、食、住を飾ってきたのである。こうした日本人の自然観が日本文化の根底となり、芸術をつくり、人間生活の源泉となり、自然こそ、力でありエネルギーと捉える文化が築き上げられてきた。⁶



日墨協会本部の日墨会館と日本庭園

日墨協会には、世界に誇れる建物があり、庭があり、また、これらの施設を通して日本文化の良さを伝えることができる人がいる。このような宝を生かして、今の施設、さらに、これから建設される施設を通して、日本文化の真髄を感じてもらい、人生の転機となるものを提供できるようになることこそ、日墨協会に課せられた使命であると受け止めている。そのために、具体的に何をして行くのか、一つ一つ明確にして行くことこそ、我々、協会を預かるものに課せられた使命である。

(本稿は執筆者個人の考えを述べたもので、協会の公式見解を示したものではない。)

- 1 dela (デラ) は、2012年名古屋で誕生したユニット。デビュー以来、地元愛知県でのLIVE・イベント出演に留まらず、CMやドラマ・バラエティなどのテレビ番組に多数出演。また、上海や台湾・HAWAII・シンガポール・ベトナムでもLIVEを敢行するなど、名古屋からアジア・世界への活躍の場を広げるハイクオリティーアイドルユニット。<https://www.nbgf.jp/archives/team/dela>
- 2 名古屋おもてなし武将隊は、「武将都市ナゴヤ」をPRするために結成された名古屋の観光PR部隊。別名「イケメン武将隊」とも呼ばれる。日本人の“おもてなしの心”とSAMURAIカルチャーを世界に発信するために、名古屋城を拠点にさまざまな活動を行っている。<https://ja.wikipedia.org/wiki/名古屋おもてなし武将隊>
- 3 ジェームズ：モチベーションの上がる言葉 55選 <http://motiv.top/word/williamjames/>
- 4 栗田 勇『千利休と日本人』祥伝社 1990年
- 5 『日本人の自然観「雪月花」』1999年 MOA International
- 6 同上